

Safety Report セーフティポ 子ども

かるた遊びを通じた 幼児への交通安全教育



3歳以上の幼児に「Honda 交通安全かるた」を活用し、正しい交通行動を理解してもらう

「Honda 交通安全かるた」は、かるたで遊びながら「正しい交通行動」や「命の大切さ」について学べるようになっていくのが特徴である。子どもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを45の絵札と読み札でわかりやすく紹介しており、昨年、デザインやイラストを刷新。家庭だけでなく、幼稚園・保育園などでも活用が広がっている。

Hondaの企業内託児所「わいわいがーでん」（埼玉県和光市）は2月から入所している幼児への交通安全教育に交通安全かるたを取り入れている。保育士の宮脇恵美子さんは毎年、正月の行事でかるた取りをしていることもあり、子どもたちがスムーズに参加することができたと話す。「絵札に描かれている『できるニャン』が子どもたちに好評です。以前、

実施した交通安全教室の中に『できるニャン』が出てきていたのを覚えていて『あの時のネコさんだ!』と喜んでいました。また、クルマが好きな子どもが多いので、夢中になって交通安全かるたに取り組んでくれます。さらに、読み札の裏面には交通ルールやマナーの解説が書かれています。1枚取った後、私たちがその解説を読むことで、子どもたちが絵札のイラストの意味をより深く理解でき、守ってほしいことが浸透していくと感じています。

かるたというツールがあることで、保育士が交通安全教育を実施しやすくなると宮脇さんはいう。室内での遊びの一つに交通安全かるたを取り入れ、今後も通年で活用していく考えだ。



「Honda 交通安全かるた」の詳細や購入については以下のホームページを参照。
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/karuta/>

Safety Report セーフティポ 若者

安全運転技術を身につけるとともに、 自分の運転の問題点に気づいてもらう機会

高校生の二輪車利用を禁止する「三不運動」（免許を取らせない・バイクを買わせない・バイクに乗らせない）を廃止した埼玉県教育委員会は、自動二輪や原付の運転免許を取得した生徒を対象に「高校生の自動二輪車等の交通安全講習※1（以下、講習）」を2019年度から県内各地の自動車教習所を会場に実施している。参加校、参加者ともに増加傾向にあり、2021年度は県内のべ94校338名の生徒が受講した。

講習は実技講習、講義、救急救命法で構成されている。

実技講習は、二輪車安全運転推進委員会に所属する二輪車安全運転指導員と埼玉県警察本部交通機動隊の白バイ隊員が担当。生徒は自分のバイクを運転し、ブレーキングやバランス、コーナリングなどの実技課題に取り組む。講義では、埼玉県警察本部の警察官が高校生の交通事故の状況や二輪車事故の特徴、事故に遭った時の対応について説明。

今年度からは講義と実技講習との連携を強化するため、Honda 動画 KYT※2（危険予測トレーニング）を取り入れた。教室のモニターに二輪車で市街地を走行する動画が流され、生徒は危険を感じた場面で手元に用意されたボタンを押す。動画が終了すると、それぞれがボタンを押した場面で予測される危険が何か答え、全員で共有する。そのような危険に近づかないために、運転中は常に危険を予測することが重要であると伝えた。

救急救命法では秩父自動車学校の教習所指導員が交通事故などの負傷者を見つけた時に必要な心肺蘇生やAEDの使用方を説明し、それを生徒たちが実践した。

埼玉県立秩父農工科学高等学校は一定の条件を満たした生徒に原付での通学を許可してお

り、2021年度は70名（免許取得のみの生徒も含む）が受講している。同校で交通安全を担当する教諭 今井教夫さんは、生徒が安全運転技術を身につけるだけでなく、それまでの運転がいかに危なかったかを気づくことができる大切な機会だという。「低速でのバランス走行など実技の課題で苦戦する生徒に対し、二輪車安全運転指導員や白バイ隊員の方から技術不足を補うための的確な指導をしていただけます。そして、アドバイスを聞いたり、模範走行を見ることで、生徒は自分の問題点に気づくようです。私たちも学校生活の中で安全指導を行っていますが、二輪車の運転に関するプロであり、二輪車が好きな方々の言葉のほうが生徒の心に響くのでしょう。また、講義での危険予測トレーニングも自分の運転を振り返り、安全意識を高める効果があると思います。

埼玉県内では2020年、高校生のバイク重大事故が5件発生しているが、いずれも講習未受講や免許取得を学校に届け出していない生徒によるものだった。受講者へのアンケートでは「事故の危険を考えると、安全な運転を心がける」という傾向がうかがえることから、この講習は高校生の安全意識の向上に一定の役割を果たしているといえる。講習を通じて身につけた知識や技術、マインドは将来、四輪車を運転する時にも活かされ、交通事故防止につながっていくはずだ。

※1 以下の団体が共催・後援。（一社）埼玉県指定自動車教習所協会、埼玉県警察本部、（一財）埼玉県交通安全協会、埼玉県二輪車普及安全協会、埼玉県高等学校安全教育研究会、埼玉県交通安全対策協議会。

※2 実際の交通状況を再現したCG動画を見ながら危険を予測し、その過程を振り返ることで危険感受性を高める教育機器。



実技講習では二輪車安全運転指導員が生徒一人ひとりの運転を観察し、改善のためのアドバイスを行った



白バイ隊員が正しい乗車姿勢をとるためのポイントを説明



パイロンの間を低速で通り抜ける課題などを通じてバランスのとり方を身につける



カーブには限界速度があることを体験し、安全なコーナリングの方法を習得



右直事故を防ぐため、交差点に進入する前に対向右折車の有無を確認するように指導



講義での動画 KYT。問題となる交通場面の映像が終わると、各生徒がボタンを押したタイミングをモニターに表示し、危険の感じ方には個人差があることを知ってもらう